

2023年度自己評価

学校法人藤学園 藤女子中学校・高等学校

1. 教育の目標	カトリックの精神に基づき、教育と研究を通して広い知識と豊かな心を備え、将来家庭・社会を担って行く女性を育成し、且つ国際的視野を持つ教養ある人間を育成する。
2. 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> • 思いやりと温かい心を持ち、明るく素直に人と接する心を育てる。 • 自ら考えて自主的に行動し、自分の言動に責任を持つ力を育てる。 • 自分の持つ特性や能力を知り、それを十分に伸ばすことのできる力を育てる。 • 国際的な視野を育て、世界の中の一員としての意識を育てる。 <p>「ひとりひとりの咲くべき花を咲かせよう ～ うつしく やさしく しなやかに ～ 」</p>
3. 評価方法	評価方法は次の4段階である。A:大変よくしている B:よくしている C:あまりしていない D:まったくしていない

4. 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価	
		達成度	改善の方策
建学の精神	キリスト教(カトリック)の教育観、(人知を超えたものへの畏敬の念を持ち、人間としての愛の心や真の心の豊かさを身につけること)を理解しているか。	B+	2024年度始めの教職員研修会では、イエズス会司祭・上智大学神学部教授の竹内神父様を招き、「いのちの視座」のご講演をいただいた。今後も、教職員研修会を充実させるとともに、職員朝礼や職員会議で実施している教職員の祈りを継続する。
	建学の精神、(キリスト教の愛の精神に基づき、広い知識と豊かな心をもって、家庭や社会を担う女性を育てる)を理解しているか。	A	
	校訓である謙遜(あるがままの自分を直視し、長所も欠点も素直な心で認め励むこと)を理解しているか。	A	
	校訓である忠実、すなわち家庭、学校、社会に対する自分の務めを責任をもって果たすこと、を理解しているか。	A	
	校訓である潔白(身も心も清らかで正しく、良心に従って生きること)を理解しているか。	A+	
学習指導	毎回の授業を充実させ、生徒一人ひとりの学習意欲向上に向けた努力をしているか。	A	<p>中学1年生・2年生の基礎期から、10分間の朝学習(英語・数学)を継続して取り組み、基礎基本の着実な定着と向上が確認された。中学3年生以上の学年についてはレベル選択型授業(AMS)の積極的な修正をはかりながら、生徒個々の学力に対応した授業を実践する。</p> <p>今年度より中学3年生が一人一台のChromebookを所有する。共有してChromebookを使用している他学年も含め、授業で積極的な活用をし、生徒一人ひとりの学習状況や履歴の把握と指導に役立てるよう、教職員間での情報交換や研修、指導体制を推進する。</p> <p>生徒の思考力・判断力・表現力を向上させることに努め、探究学習、グループ学習、最先端の研究や技術に触れることができる学びの場を生徒に提供できるよう分掌や教科、学年で積極的に企画していく。</p>
	生徒からの授業アンケートの結果を授業改善のためにいかしているか。	B+	
	生徒一人ひとりの家庭学習の状況を把握しているか。	B	
	努力した生徒に対し適切な声かけをしているか。	B+	
	努力の足りない生徒に適切な声かけをしているか。	B	
	授業開始のチャイムで授業を始めているか。	A	
休暇やその他の理由で学校を離れるとき、時間割変更や学習内容の適切な指示で自習とやらぬよう努めているか。	A+		
生徒指導	生徒心得の内容とそれを守ることの意義を自ら理解し、生徒に理解できるよう折に触れ話しているか。	B	<p>日常生活や行事、ボランティア活動などを通して、キリスト教の愛の精神を伝え、隣人を愛し、他者に寄り添う心を育てる。</p> <p>SNS等によるトラブルやネット上のリスク・マナーについて、保護者には入学前に、生徒には入学直後のオリエンテーション時に、冊子を配布し丁寧に指導し、生徒が自らの問題として捉えることができるよう、保護者の協力を得ながら指導を行う。</p> <p>登校に困難を抱える生徒に対し、保健室やステップルーム(別室登校)を活用しながら、全教職員で協力しながら支援を行い通常登校へ導く。</p> <p>生徒指導部の主導で、挨拶や身だしなみ、登下校時の公共マナー指導を引き続き行う。</p> <p>生徒、保護者へ寄り添う姿勢と、きめ細やかな丁寧な指導を根気強く行うことを全教職員で確認し、情報と支援方法の共有をはかり実践する。</p>
	身だしなみを整えることの意義を理解し、自ら模範となり、折に触れ生徒に伝えているか。	B+	
	挨拶をする、時間を守る、話を集中して聴く、自分の言葉で話す、周囲を思いやるなど、良好な人間関係を築くために必要な社会性を身につけられるよう導いているか。	B+	
	生徒の個人的な状況(家庭環境・友人関係・既往症・悩みなど)を知っているか。	B+	
	生徒心得が守られていない生徒に、必要な声かけを行っているか。	B+	
	生徒指導上の問題が起こった時、適切な人・学年・分掌に相談・報告し、連携して解決に努めているか。	A	
	個々の保護者と良好な関係にあり、特に生徒指導面において連携ができていないか。	B	
	生徒指導上の問題で生徒と向き合う時、一個の人格として受け入れ、どのようにすべきか気付くよう愛情と根気をもって指導しているか。	B+	
職場環境	職員同士の挨拶や声かけなどを通して明るく気持ちのよい環境づくりに努めているか。	A	<p>教職員が互いに声を掛け合いながら、気持ちよく過ごせる職場の環境づくりに努める。</p> <p>教務支援システムBLENDやClassroom、Googleformsなどを有効活用し、情報共有やペーパーレス化とゴミの減量を継続する。また、業務の効率化をはかり、教職員の働き方改革を推進する。</p>
	職員室・印刷室・休憩室など共有の場で、互いが気持ちよく過ごせるよう配慮しているか。	A+	
	コピー機、印刷機、コンピューター、冷蔵庫など共有の設備を、互いが気持ちよく使えるよう配慮して使用しているか。	A+	
	節電・節水・紙の節約・ゴミの分別など地球環境を考えた生活をしているか。	A+	

5. 総合的な評価結果

総合評価	今後の方策
B+	<p>隣人愛を育む教育、個別最適な学習支援、進路実現へのサポートを推進する。また、本校の魅力と本校自慢の生徒の姿を広く伝えられるよう、SNSなどので積極的発信と、オープンキャンパスや学習会の内容充実、在校生の参加を積極的にすすめる。</p> <p>高校入試元年として、魅力ある学校づくり、積極的な広報活動、3か年教育スケジュールの工夫を教職員全体で議論を深め準備・実践する。</p> <p>創立100周年を迎えるにあたり、創立時のシスター方への感謝と、良き伝統と歴史の継承をおこない、藤女子中学校・高等学校のさらなる発展を目指す。</p>